

## 音読みと訓読みの区別まとめ

① 基本的にはこう考えよう

(1) それだけで**意味の分かる読み方** ▼**訓読み**  
(2) それだけでは**意味の分からない読み方** ▼**音読み**

② 鉄板パターンを覚えておこう

(1) **送りがなを必要とする読み方** ▼**訓読み**  
(2) **読み方が4字以上** ▼**訓読み**

(逆をいうと音読みの読み方は必ず3字以下)

(3) **濁音やラ行で始まる読み方** ▼**音読み**

③ わりと多い「読みが二拍」の場合

(1) **小さい「やゆよ」(拗音)をふくむ読み方** ▼**音読み**

(2) **二拍目(末尾)が「ウンチクキツイ」** ▼**音読み**

(3) **二拍目(末尾)が「ウンチクキツイ」以外** ▼**訓読み**

### ①にじつてもつとくわしく 漢字辞典での表記

・音読み⇨中国語 ▼ 外国語 ▼ カタカナ

・訓読み⇨日本語 ▼ ひらがな

### ②にじつてもつとくわしく

(1) 「送りがな」は、日本語として「意味が分かる」ように添えられている文字ですから、送りがなを必要とする読み方は「訓読み」ということになります。

【例外】「接する」「屈する」「生じる」のように「ゝする・ゝじる」の「ゝ」部分は音読みになります。

(2) 「承る」や「著しい」のように送りがながついていないのももちろんですが、送りがながついていなくても、読み方が4字以上の場合は訓読みになります。

例・「志」「公」「詔」「私」など  
逆にいうと、「音読みの読み方は必ず3字以下」です。

(3) 「濁音やラ行(ラリレロ)で始まる読み方は音読み」です。「額に入  
れて飾る」の「額(カク)」などは、それだけで意味が分かるので訓読み  
と間違えそうですが、濁音はじまりの読みなので音読みになります。

【合】「残」「字」などもすべて音読みです。

【例外】「路」「場」これらは濁音なのに訓読みです。

### ③にじつてもつとくわしく

まず、「二拍」というのは、必ずしも「二文字」とは一致しないことを  
知っておきましょう。小さい「やゆよ」(拗音)は、それ単独で一拍とは  
数えないのです。たとえば、「きょう」というのは「きよ・う」というよ  
うに二拍と数えます。

小さな「っ」(促音)は「しゃっくり」▼「しゃ・っ・く・り」のよう  
に一拍と数えてください。

二拍の読み方で、二拍目、つまり末尾が「ウンチクキツイ」だったら、音  
読みである可能性が高いです。

(例) 空(クウ)・円(エン)・日(ニチ)・悪(アク)・席(セキ)  
達(タツ)・愛(アイ)

【例外】二拍の読み方で、二拍目が「うんちくきつい」なのに訓読み

秋・息・粹・幾・市・五・内・沖・奥・貝・柿・神・口・靴・恋  
先・隙・背・関・滝・竜・竜・月・土・時・枋・問・夏・何・新・軒・後  
灰・蜂・初・縁・舞・牧・巻・町・街・松・道・餅・夕・雪・宵・八  
脇・梓

例外が多めですが、二拍の読み方で音読みになるとしたら、二拍目は「ウ  
ンチクキツイ」の七種類しかないことは間違いないので、

・二拍の読み方で二拍目が「ウンチクキツイ」なら音読みの可能性大(訓  
読みもありえる)

・二拍の読み方で二拍目が「ウンチクキツイ」でないなら訓読み  
と覚えておきましょう。

### ★よくでる間違えやすい音読み

本(ホン) 天(テン) 番(バン) 客(キヤク) 図(ズ)  
陸(リク) 王(オウ) 台(ダイ) 曲(キョク) 字(ジ)  
役(ヤク) 肉(ニク) 駅(エキ) 愛(アイ) 絵(エ)

### ★よくでる間違えやすい訓読み

原(はら) 相(あい) 身(み) 場(ば) 屋(や)  
関(せき) タ(ゆう) 路(じ) 野(の) 荷(に)